

# 日刊 労働千葉

85.1.10  
No.1835

### 国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）  
（鉄電）二九三五・六（公衆）〇四七二・二七二〇七



## 人民圧殺-暗黒の時代を 破防法を許すな

第9回  
労働学校



動労千葉労働学校・第9回講座は、昨年十二月十五日、講師に「破防法裁判闘争を支える会」世話人である浅田光輝氏（立正大教授）を迎え「破防法弾圧と労働者階級」というテーマで行われました。



### 闘いの高揚に追いつめられ 暴挙に走る東京地裁

現在、東京地裁において一九六九年七月一年にわたる「安保・沖縄決戦」にかかわる三件の「破防法裁判」闘争が、十五年間にわたって闘い続けられています。しかし、今日、三里塚や国鉄をはじめとする階級闘争の激烈な発展に追いつめられ、支えられた階級は、全く理不尽にも弁護側の立証活動をことごとく制限し、闘いの高揚を押しさえつづけるために急遽「論告求刑」を強行し（昨年十一月十二日）、「有罪判決→破防法濫用」「反体制運動を闘う団体や個人を解散させ逮捕する」という体制を強引につくろうとしているのです。

これは、反動中曾根内閣の突進している軍事大国化・改憲→戦争体制づくりそのものの重大攻撃であり、私たち闘う労働者・労働組合に直接ふりかかってくる攻撃に他なりません。

### 「治安維持法」よりもっと 危険な「破防法」

浅田講師は、約三時間半の講義で、大略次のような提起をわかりやすく展開されました。

まずはじめに、「破防法裁判十五年の闘い」を時期を区切ってその要点を説明され、①69年「4・28安保・沖縄闘争」②71年11月「沖縄返還協定批准阻止闘争」に至る沖縄現地や首都圏をはじめ日本全

国をゆるがした大衆的実力闘争の爆発とそれに対する機動隊戒厳警備→大量逮捕

破防法発動。②それは公開の集会での演説に対し「安保や沖縄問題という国策に反対する政治的意志をもって」「破壊活動を煽動した」等の理由で起訴したもので、これは「ことば、思想」を犯罪としてとりしめる暗黒独裁国家のやり方である。③十五年にわたる裁判は「被告・弁護団の権利への不当侵害との闘い」「破防法の違憲性の追及」「検察側に充分すぎる証拠調べを与えた上で弁護側の反証を不当に制限し強行打ち切り」「だましようち的に論告求刑強行」をもって、この二月にも結審→有罪判決をのみ急ぐという反動中山裁判長の暴挙という事態にたち至っていることを明らかにしました。

そして、第二に「破防法はどういう法律か」に触れて、①一九五〇年朝鮮戦争を背景になされた講和→占領解除に伴う治安規制法として制定された。②「破防法」は戦前の「治安維持法」を再現したもの。反体制の政治運動→組織→個人を抹殺する目的の治安弾圧法である。③しかし、「公共の安全確保」という不明確な条文を掲げている「破防法」は権力者の判断しだいで際限なく拡大適用される

この「法」の目的を  
しつかりと見ぬこう  
（館山支部・A生）

## 感想

GHQが戦後の占領支配から手を引き、一応の「民主主義」国家体制に移行するという時期、左翼の台頭が著しくなる中で、どうして大衆をしばりつけていくのかというところで、この「破壊活動防止法」という治安弾圧の法律が出されてきたのではないだろうか。戦前の「治安維持法」にかわるものとしてあることは明らかである。「天皇制国家体制を守る」ことをかけた戦前の「治安維持法」、それに「公共の安全を守るため」と称する「

点でより一層危険なものである、ことを強調された。

そして最後に「70年安保闘争とは何か、それへの破防法発動は日本人民にとっていかなる意味をもつのか。そもそも、人類最大の『破壊活動』とは国家権力による戦争そのものである。70年安保闘争は戦争反対・戦争準備阻止を目標に闘われた。戦争遂行を目的とした安保体制の構築→沖縄の核恒久基地化を内容とする返還協定を（機動隊の暴力と18回もの国会強行採決のくり返しで）推進した佐藤政権こそ、日本人民の『安全』に対する破壊活動の元凶ではないか」と講演をしめくくられた。

2・3 破防法と闘う国民大集会へ  
明解な講演の最後に、浅田氏は「2月3日の国民大集会」への参加を訴えられ、参加者は、この闘いを支部の運動として盛りあげていくことを決意し、第9回講座は成功裡に終了しました。

次回「労働学校」に集まろう  
一月十九日（土） 十三時～十七時  
動力車会館（東千葉駅前）  
「臨調国鉄攻撃と労働者階級」  
労働運動研究家 杉田明氏

破防法」→その目的とする中味については戦前と戦後は全くかわらないものだと思つた。  
ましてや、「治安維持法」以上に拡大解釈が可能な「破防法」によって、個人々の思想信条までもがしばられていくことは明白であり、また、「公共の安全」ということでその団体をも解散させていくような治安弾圧法はなんとしても粉碎されなければならない。われわれが日常おこなっている労働運動の中にも、これが入ってくると思わなければならないであろうし、人民大衆がこの法をしつかりと知り、何を目的に作られているかを知らなければならぬと思つた。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！